



6月1日現在在籍数 283名

気仙沼市立松岩小学校

■ 本校の教育目標 ■

志を持ち、  
かしこく、やさしく、たくましく  
生きる児童の育成

令和6年度 学校だより NO. 3

令和6年6月3日（月）発行

「校長先生、楽しいです!」 ～「わくわく感」を大切に～

気仙沼市立松岩小学校 校長 佐々木 裕作

「校長先生、楽しいです。」

先週の月曜日の放課後、ある教室を回っていたときに、1年生の子に話されました。

「よかったね。」

と言葉を返しました。

今年度から、市内一斉に5時間授業日を設定しています。以前、PTA総会や学校からのお便り等でお知らせしておりますが、松岩小では5時間授業日の放課後の時間を、「放課後チャレンジタイム」と命名し、子供たちの「児童の個に応じた学びの実現」「異学年交流活動の推進による児童の絆づくり」等に活用していきます。4月は居所調査、5月は運動会があり、なかなかスタートできなかつた放課後チャレンジタイムですが、先週の月曜日の「縦割り班活動」でようやく始まりました。先に紹介した言葉は、その時に話された言葉です。素直にうれしかったです。

この間の活動は、1回目の縦割り班活動ということもあり、グループ内の顔合わせの意味合いが強く、みんなで何かをする活動そのものの時間は、決して長くはありませんでした。それでも、その子は「楽しく」感じたのです。6年生の子供たちが、短い時間でも楽しめるよう活動を工夫してくれたこともあるかと思いますが、その子は、「みんなで集まって何かをすること」に、きっと「わくわく」したのではないかと思います。この子供たちが感じる「わくわく感」、日々、大切にしていきたいと思っていることの一つです。

子供たちの「わくわく感」は、子供たちの表情からも感じ取ることができます。これは、行事のような特別な場面だけでなく、日々の授業でもそうです。「おもしろそう」「やってみよう」「できるようにになりたい」「もっと知りたい」「次は何だ」などの子供たちの気持ちの表れが「わくわく感」であり、それが子供たちの「自分から進んで取り組む」という主体性を発揮させる原動力になると思っています。

学校教育では「主体的に学ぶ」ことが重要視されています。授業を受けるだけといった受動的な学びよりも、自ら目的意識を持って学習に臨み、自らよく考え、体験したり、他の人に教えたり、友達と話し合ったりしながら解決していく能動的な学びは、学んだことが身に付きやすくなると言われていました。「言われてやった」ことより「自分から進んでやった」ことの方が、自分の身になったという経験をお持ちの保護者の方もいるのではないのでしょうか（これは、学習に限ったことではなく、日々の生活の中でも当てはめて考えることができます）。

そのために学校で大切にしなければならないこと。それは、子供たちがたくさんの「わくわく感」を持つことができるような働き掛けを我々教職員が行っていくことです。子供たちの「わくわく」した表情をたくさん見ることができるよう、全職員で頑張っていきたいと思います。

先日、学区内で交通死亡事故がありました。近くを子供たちが通ってなくてよかったと心から思いました。地域の方からは、郵便局の駐車場をバックで出てきた車と下校途中の子供が接触しそうになったという話も聞きました。いつ、どこで、どんなことに遭遇するか分かりません。そのためにも、正しい道路の歩き方や、通学路・自宅周辺の見通しの悪い場所・事故の危険性がある場所等、折に触れて子供たちと確認していただければと思います。我々、自動車のハンドルを握る者は、交通事故を起こすことのないよう、安全運転を心掛けましょう。

最後に、先日、ある先生から「クラスの子供が、朝会の後、『校長先生の話、分かりやす〜い。』と話していました。」と話されました。（よしっ）と心の中でガッツポーズです。何歳になっても、褒められるというのはうれしいものです。ぜひ、お子さんたちもたくさん褒めてあげてください。